

熊本城復旧基本計画 改定素案（概要）

【資料4】

計画項目	第1回委員会で整理した検証・課題	計画への反映内容
第1章はじめに		
計画の改定にあたって		新規追加（経緯や改定方針・主な改定点等を記載）（資料4-1）
1.計画策定の趣旨・目的		変更なし
2.計画の対象区域		特別史跡追加指定により面積が変更(51.2ha⇒57.8ha)
3.計画の期間	実績をもとにした標準工期の再設定と適切な事業量の設定を踏まえ、全体工程の見直しが必要	全体工程を踏まえた計画期間を設定（資料4-2）
4.計画の位置づけ		震災復興計画等、関連計画の変更を反映
第2章熊本城の被害状況		基本的に変更等はなし（熊本城の概要における史跡の変遷(追加指定)の修正)
第3章復旧方針		
1.基本方針		変更なし
2.石垣・建造物等の復旧方針		変更なし
3.石垣・建造物等復旧の着手優先度		変更なし
4.復旧手順及び期間		
(1) 工区の設定		
(2) 標準工程の設定	実績をもとにした標準工期の再設定と適切な事業量の設定を踏まえ、全体工程の見直しが必要	【資料3】熊本城復旧基本計画の全体工程の検証結果を反映
(3) 工期の設定		
(4) 復旧手順及び期間		
(5) 被害額と復旧整備事業費		事業費の実績（第1回検証委員会にて提示）を反映
第4章施策と具体的な取り組み		
1.被災した石垣・建造物等の保全		
(1) 崩落・倒壊した石垣・建造物等部材の回収・適切な保全（短期）		
①崩落石垣の回収、適切な保全	市民への影響の大きい箇所、計画のスケジュールを踏まえながら崩落石回収等を順次実施	左記内容を計画に記載
②建造物等の部材の回収、適切な保全	・建築物の解体は、再利用が必要となるため丁寧な回収作業が必要 ・木部材は、保管後もシロアリ対策等の適切な管理が重要	左記内容を計画に記載
③石材と建造物等部材の保管ヤードの計画	・実情に応じた保管ヤード計画の見直しが必要	保管ヤードのさらなる拡充について記載（資料4-3）
(2) 崩落・倒壊等の危険性の高い石垣・建造物等への緊急的防止措置（短期）		
①石垣の緊急対策工事	・緊急対策の経年劣化の防止対策や適切な点検・管理が必要	左記内容を計画に記載
②建造物等の緊急対策工事		
(3) 被害実態の詳細の把握及び復旧方法等への反映（中期）		
①被害の詳細な調査と検討	・復旧に向けた基礎資料となるため、丁寧かつ慎重に作業を実施 ・調査等に想定以上の期間を要する	左記内容を計画に記載
2.復興のシンボル「天守閣」の早期復旧		
(1) 市民・県民の復興のシンボル「天守閣」の2019年を見据えた早期復旧（短期）		
①天守閣の早期復旧の実現	2021年3月に復旧工事が完了し、予定通りの工事の進捗となった。	
②早期復旧に向けた取り組み		
1) 技術提案・交渉方式の採用	実施済み	事業完了につき実績を記載
2) 工事車両動線の確保		
(2) 耐震化等による天守閣の安全性の向上（短期）		
①最新技術による耐震補強		
②跳ね出し架構の採用	実施済み	事業完了につき実績を記載
③屋根の軽量化		
④天守閣の防災減災対策		

計画項目	第1回委員会で整理した検証・課題	計画への反映内容
(3) 天守閣のバリアフリー化及び展示・内装内容の刷新（短期）		
①天守閣のバリアフリー化	実施済み（最上階まで様々なお客様が移動可能となった）	事業完了につき実績を記載
②展示・内装の刷新	実施済み	
3.石垣・建造物等の文化財的価値保全と計画的復旧		
(1) 石垣・建造物等の計画的復旧（中期）		
①文化財的価値の保全と計画的復旧	復旧事業により明らかになる歴史的な事実と被災状況の情報を収集し、引き続き文化財保護と防災対策に関して専門的領域を超えた検討が必要	・左記内容を計画に反映 ・組織体制の変遷について資料編に記載
②石垣・建造物等の計画的復旧	フローを随時確認し進捗状況を把握	全体工程の検証結果を反映
(2) 工区や復旧過程の公開等を踏まえた石垣・建造物等の段階的復旧（中期）		
①工区や動線確保を踏まえた段階的復旧	工程変更等に伴う調整が必要	変更なし
②公開等を踏まえた段階的復旧		
(3) 伝統技法等による丁寧な復旧及び効率的手法の検討（中期）		
①伝統技法等による丁寧かつ効率的な復旧	今後も継続して丁寧に実施	変更なし
4.復旧過程の段階的公開と活用		
(1) 天守閣エリア等の早期公開と主要構成建造物の復旧（中期）		
①公開エリアの年次状況	復旧状況を踏まえた公開エリアの検討	・全体構成も含めた見直しを行う（資料4-4） ・特別見学通路の実績を記載
②見学通路（仮設）の整備		
③公開エリアと観覧ポイントの拡充		
④復旧と公開の状況		
(2) 復旧過程の文化・観光資源等としての活用（中期）		
①復旧過程を見る、学ぶ、楽しむ	・今後の復旧状況をどのように「見える化」するか ・教育機関との連携による取組の検討が必要 ・「見える化」に留まらず体験して実感する機会が必要 ・復旧に伴う調査結果の展示や動画の活用による情報公開	活用に関する新たな取組みを記載（資料4-5）
(3) 都市公園としての機能の回復・向上		
①安全で快適な来城者動線の確保等	都市公園・観光資源としての機能回復と維持管理が必要	左記内容を計画に記載
②便益施設等の復旧		
③都市機能の回復と観光資源としての再生		
5.最新技術も活用した安全対策の検討		
(1) 文化財的価値の保存を踏まえた石垣・建造物等の耐震化等の検討（中期）		
①石垣構造解析	石垣の安定性評価手法の考察・検証が必要	・実績を記載 ・実績を踏まえた今後の方向性について記載（資料4-6）
②石垣の構造評価と補強	・石垣ごとに異なる諸条件に応じた有効な手法の検討が必要 ・石垣の本質的価値を損ねない範囲内での補強と耐震性能の両立が課題	
③建造物構造解析	建造物の耐震化等については、石垣が安定していることが前提となるため、石垣検討の状況に影響を受ける	
(2) 耐震化等安全対策に係る最新技術・現代工法の検討（中期）		
①無人化重機による崩落石材回収	円滑な復旧推進のため、今後もより効率的な最新技術の選択・活用が必要	実績を記載
②石垣測量設計		
③石材対照ソフト等の活用		
(3) 将来の災害に備えた熊本城全体の安全・防災対策等の検討（中期）		

計画項目	第1回委員会で整理した検証・課題	計画への反映内容
①総合的な安全・防災対策等の検討	・定期的な防災訓練の実施が重要	・防災訓練実績の記載
②熊本地震の被害想定を検証	・復旧工事中及び復旧工事後の防災に強い防災設備整備の検討	・「防火対策ガイドラインを踏まえた防災設備の整備」を反映
6.100年先を見据えた復元の礎づくり		
(1) 熊本城調査研究の更なる推進（中期）	・今後も更なる調査・研究に取り組む	新たな発見事例などを掲載（資料4-7）
(2) 将来にわたる継続的な復旧を支える人づくり（中期）	・継続的な石垣工事の実施、石工育成にかかる期間や仕組みづくり、石工の魅力発信などの課題があり短期間での育成は困難 ・石工の育成はOJTが重要であり継続して現場に参加することでできる仕組みが必要。 ・教育機関との連携による人材養成と人材育成とを繋げる仕組みが必要	石工等の育成の実績、課題、方針について記載（資料4-8）
(3) 震災の記憶継承と幕末期など往時の姿への復元検討（中期→長期）		
①震災の記憶継承	・「復旧の見える化」等により、震災の記憶継承に取り組み復旧～復元への速やかな移行へつなげる	変更なし
②復旧後の整備事業		
7.復旧基本計画の推進		
(1) 国県等の関係機関一体となった復旧の推進（中期）	今後も継続した関係者間の連携と情報共有が必要	変更なし
(2) 多様な復旧財源の確保（中期）	国県等から手厚い財政支援をいただいている。	変更なし
(3) 城主制度や瓦の活用等による継続的な市民等の参画による復旧（中期）		
①城主制度等による参画と復旧財源の確保	・寄附金額が減少傾向にある	実績を記載（寄付金に関する実績と経緯を資料編に記載）
②瓦や石材の活用等による新たな参画方法の検討	・市民参画の新たな手法の検討が必要	
第5章計画の実現に向けて		
1 実現に向けた課題と対応		短期施策の検証を踏まえ中期以降の課題を記載（資料4-9）
(1) 人材育成に係る課題		
(2) 公開時における安全対策の徹底		
(3) 復旧工事に係る課題		
①新石材及び復旧に必要な保管ヤード等の確保 ②主要工事動線の拡充 ③工事動線の確保に伴う周辺施設への影響 ④仮設建造物の撤去及び行幸坂等の復旧		
2 計画の進捗管理		順応的管理の視点による進捗管理を記載（資料4-10）
【資料編】		組織体制の変遷・年度毎の実績・シンポジウム・寄付金に関する実績と経緯

※上記記載の内容以外についても、全体をとおして、時点修正等の文言・表現等の軽微な修正については適宜行います。